

とちぎ散歩 Mini

市内各地の名所・旧跡を写真で紹介します。

栃木市の情報を動画で！
「栃木市動画チャンネル」



小倉堰

西方町本城にある小倉堰は、1603年(慶長8年)に、とき西方城主・藤田能登守によって小倉川(現在の思川)にかんがい用水などの取水のために造られた堰です。現在の堰は固定堰として昭和29年に完成したもので、小倉堰には400年以上の歴史があります。



▲日光連山から流れてくる清らかな水を取り込んでいます



▲関東の三堰にも数えられている小倉堰

▶住吉神社とムクロジの木
(2003年作成都賀町勢要覧より)



住吉神社とムクロジの木
都賀地域の家中という地名は戦国時代に大きな城郭がこの地であって、多くの家中(家臣)が住んでいたことが由来であると言われています。この家中の中にある本郷地区には、住吉神社という神社があり、その敷地内には市の文化財に指定されているムクロジの木が青々と葉を茂らせています。



御門地区と平将門
岩舟町静にある御門地区は、平安時代の豪族平将門とのゆかりが伝えられる場所です。将門の軍営跡に創建されたといわれる地区内の御門神社は、昭和初期までは「将門神社」と呼ばれ、旧御門村の氏神でした。将門は950年に、安蘇を根拠地とした藤原秀郷らに討たれたことから、大正末期のころまでの地元小学生は、唐沢山に遠足に行っても、藤原秀郷を祭る唐沢山神社には礼拝しなかったといわれています。

将門の軍営跡に創建されたといわれる御門神社



▶神社には現在も大正時代に奉納された扁額が掲げられています

旧県庁跡地唯一の遺構 県庁堀

明治6年に栃木県と宇都宮県が統合され、現在の栃木県が誕生しました。その後、明治17年に宇都宮に県庁が移転されるまでの13年の間、栃木町に県庁が置かれていました。現在の栃木中央小学校、栃木高等学校などのある区域がその敷地跡です。当時、県庁敷地の周囲に約1キロメートルに及んで巡らされた堀が現在も残っており、1996年(平成8年)県指定文化財(史跡)となりました。



▲堀には鯉が群泳泳姿を見ることができます。



県庁堀脇の文豪山本有三文学碑▶

部屋南部桜つつみ公園

部屋南部地域にある部屋南部桜つつみ公園は、平成13年に旧藤岡町が推進する桜つつみモデル事業で作られました。地域活性化を図るため、地域の人々が自由に参加し、協力し合える組織として部屋南部ふるさとづくり推進協議会が設立され、推進協議会主催の部屋南部桜まつりが毎年4月に開催されています。平成31年3月より部屋南部桜つつみ公園からふれあいバスで小山市路線バスに乗り継ぐことが可能になりました。



◀トイレの壁面には地元の子もたちによる手のひらアート。

◀部屋南部桜まつり(平成31年4月)

晃石山で一等三角点にふれる
一等三角点って知っていますか？一等三角点は、明治時代に日本全国の地形図を作成するための最も基準となる測量点で、隣の基準点が見えるように見晴らしの良い山頂などに設置されたもので、県内では11の山に設置され、そのひとつが晃石山なのです。
晃石山の脇を登っていくと一等三角点があり、そこから遠く那須岳や浅間山も眺望することができます。



▲遠く那須岳や浅間山の眺望

御影石でできた一等三角点▶

“会社としての機能から、地域のコミュニティをつくる場所へ” 2021年1月21日、丸和住宅は栃木駅前に移転します。

この度、丸和住宅は業務拡大に伴い、栃木駅前へ本社移転のご案内申し上げます。2021年1月21日には移転を終え、新社屋の開店となります。また、本社跡地は地元の栃木トヨタ栃木店様に有効活用して頂きます。
そして世の中は、コロナ禍により働く環境が大きく変わり、テレワーク等の促進により「会社」としての定義も変わりました。丸和住宅は地域のリーディングカンパニーとして新しいワークスタイルを奨励し、「会社」としての機能を「地域のコミュニティをつくる場所」と捉えることで、これから大きく進化させて参ります。



MARUWA JYUTAKU 丸和住宅

令和3年
1/21(木)
より

